

ものの見方はパフォーマンスをどのように変えるのか？

外山 美樹

2017年7月5日発行 (Ver. 1.0) ●発行元：ちとせプレス

あなたは自分に自信があるでしょうか？ それとも自信がないでしょうか？ 勉強や仕事などのパフォーマンスが、自分のもつ「ものの見方」の影響をどのように受けるのか、外山美樹・筑波大学准教授がさまざまな研究知見を紹介します。

Section 1

まわりの中で形成される自己概念

井の中の蛙効果

「鶏口となるも、牛後となるなかれ」という格言をご存じでしょうか。これは、一般的には、牛は鶏よりも秀でているという観念から、“優れた集団の後ろになるよりは、弱小集団でもトップになった方がよい”というたとえになります。

心理学でも、これと似た現象があります。それは「井の中の蛙効果」と呼ばれています。

少しわかりにくいので、具体的な例を交えながら説明していくことにします。

ここに、AさんとBさんがいるとします(図1参照)。AさんとBさんは、高校入学直前まではほとんど同じ学業成績でした。ところが、Aさんは学業レベルの高い進学校に入学したのに対して、Bさんはたまたま高校受験で失敗してしまい、Aさんとは違った、学業レベルがそれほど高くない高校に入学することになりました。この時点では、Aさんの方が良かったように思えるでしょう。

さて、数カ月後(あるいは数年後)、この2人はどうなったのでしょうか？

Aさんは、良くできる生徒ばかりの高校の中で、優秀な友達と比較することで、否定的な学業的自己概念

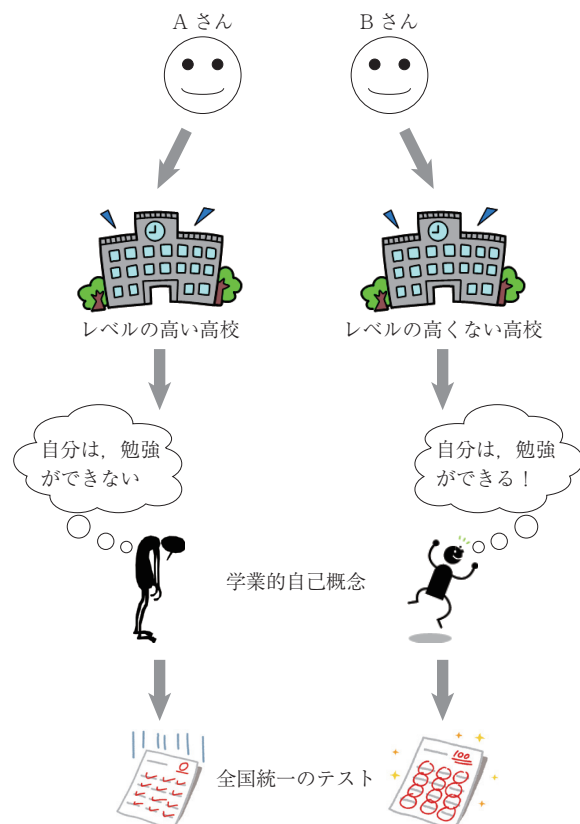


図1 「井の中の蛙効果」の具体例

を形成し、勉強に対するモチベーションを失い、最終的には悪い成績しか取ることができなかつたのです。

一方のBさんは、あまりできない生徒ばかりの高校の中で、自分よりも学業レベルの低い生徒たちとの比較のために、肯定的な学業的自己概念を形成し、それによって勉強に対するモチベーションが向上し、最終的には、Aさんが受けた同じテスト(全国統一テスト)で、Aさんよりも高い成績を取ることになったのです。

このような、学業レベルの高い集団に属すると、否定的な学業的自己概念を形成しやすく、逆に、学業レ